



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

F A O (国際連合食糧農業機関) 日本事務所  
2009年9月30日

LOJAPR09/21-No. 143

## プレスリリース

### 2050 年: 気候変動が貧しい人々の窮状を悪化させる 農業と食料安全保障の将来は気候変動と密接に関係する

2009 年 9 月 30 日、ローマ- 30 日発表された FAO の討議資料によれば、最も高いレベルで慢性的飢餓がみられる最貧地域が、気候変動の最悪の影響を受けやすい地域に含まれることになる。多くの開発途上国、特にアフリカでは、ますます食料輸入に依存することになるかもしれない。

世界全体では、少なくとも 2050 年までは、食料生産に関する気候変動の影響は少ないとみられるが、生産分布が食料安全保障に厳しい結果をもたらし、開発途上国では、地球温暖化の結果として総農業生産可能性が 9-21% 減少する可能性もある、と資料は推計した。

この資料では、2050 年までに 91 億人に達すると予測される世界の人口を養うための主要な課題の一つに気候変動が挙げられている。

同時に、いくつかの農業を基礎にした気候変動緩和策は、食料安全保障及び気候変動適応双方に顕著な貢献をすることが可能である。林業及びアグロフォレストリーの取り組みや耕起慣行、栄養分管理の効率改善及び劣化土壌の復元などの行動を通じた土壌の炭素固定は、大きな緩和潜在能力と同時に高い二次的効果を持つ行動の事例である。

気候変動は、気温の上昇、二酸化炭素濃度の上昇、降水量の変化、雑草・病虫害の増加により、農業及び林業システムに影響するとみられる。短期的には、干ばつ、熱波、洪水及び暴風雨などの異常気象の頻度が増すとみられる。

世界全体の温室効果ガス排出のおよそ 14% が農業からの排出である。農業由来の排出の 74% 及び技術的・経済的な緩和潜在能力のほぼすべて (約 70%) は開発途上国にある。

FAO 資料は、気候変動の課題は、食料安全保障及び開発への貢献が同時に保護される選択肢による農業の適応・緩和への貢献の潜在的可能性を認識し、評価する必要があると指摘する。

#### 食料安全保障への影響

気候変動は、供給、入手可能性、利用、安定性という食料安全保障の 4 つの側面に影響を及ぼす、と FAO の資料は指摘する。

供給の観点からは、大気中の CO2 濃度の増加は多くの作物の単収に良い影響を与えると期待されるが、農産物の栄養面での質は単収の増加に比例して増加するわけではない可能性もある。

気候変動は、異常気象の頻度の増加に伴い、全地域での農業生産の変動性を高める。最貧地域は食料生産上最も不安定となる。

平均すると、食料価格は2050年まで気温の上昇に伴い穏やかに上昇するとみられる。2050 年以降は更に温度が上昇し、開発途上国における農業生産の顕著な減少が予測され、価格はより大幅に上昇するとみられる。

気候変動は、媒介生物、水、食料由来の疾病による疾病圧力を増加することによって、食料の安全性の条件を変更させるとみられる。結果として、労働生産性を含む農業生産性の著しい低下を招き、貧困と死亡率の増加につながる。

### **アフリカが特に脆弱である**

特に、低所得で飢餓貧困が高発生し、既に干ばつ、洪水、サイクロンに非常に脆弱な多くの開発途上国において、農業と食料生産には悪影響が予想される。

アフリカでは、これは多くの国における食料輸入への依存の増加につながる可能性がある。気候変動により、2080－2100 年頃までのアフリカの農業生産量は 15－30%低下するかもしれないと推定される。

サハラ以南アフリカにおいて、気候変動の負の影響が最も強くなるとみられる。これは、最も貧しく、最も食料不安を抱える地域が、農業所得の減少も最も大きくなることを意味するとみられる。

### **環境は整っている**

農業部門の気候変動への適応には費用がかかるが、これは食料安全保障、貧困削減及び生態系の維持に不可欠である。食料安全保障及びエネルギー目標の双方を達成するため、農業政策、組織、技術の改善に投資するという現在の機運は、気候変動関連の行動を農業において主流化するまたとない好機である、と資料は指摘する。

資料では、最近まで、農業は気候変動交渉において森林破壊や森林劣化以外の観点からは、概して主要な問題としてはとらえられてこなかったと指摘する。FAO は、現行の資金メカニズムが土壌炭素固定活動の多くを含む農業活動を排除する傾向にあったことがその理由のひとつであると考えている。

英文 URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/35831/icode/>